

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
臨床医学	専門基礎科目	I部2年(通年)	講義	30	1					
担当教員	実務経験									
飯 春菜	回復期リハビリテーション病院において中枢疾患系・内部障害理学療法中心に5年間従事。									
講義概要										
「老年医学」「予防医学」「栄養学」を理解し、臨床現場で活用できる知識を身に付ける。										
講義目標										
【一般目標】	五大栄養素の役割を理解する。 NSTの一員として働くために、リハビリテーション栄養の基礎知識について理解する。 高齢者の身体的特徴や疾患、それに対する予防策を複合的に理解する。									
【行動目標】	五大栄養素の役割を選択できる。 リハビリテーション栄養の評価・介入方法について選択できる。 高齢者の身体的特徴や疾患、それに対する予防策を選択できる。									
回数	授業内容									
8	老年医学：老年症候群 1									
9	老年医学：老年症候群 2									
10	薬理学：法律・投与経路と代謝									
11	薬理学：自律神経に作用する薬 1									
12	薬理学：自律神経に作用する薬 2									
13	薬理学：各種疾患治療薬 1									
14	薬理学：各種疾患治療薬 2									
15	まとめ									
指定教科書		参考図書								
なし		標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学 リハベーシック 生化学・栄養学								
評定方法		準備物・注意事項								
成績:定期試験100%		生理学 I (老年医学)・病理学(栄養学)の資料 A4サイズのノート+赤・青・緑のボールペン ※板書中心のため、ルーズリーフよりノートの方が良い								

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
小児科学	専門基礎科目	I部2年	講義	30	1					
担当教員	実務経験									
大野 京介	急性期病院において整形・中枢神経系理学療法を中心に6年間従事。									
講義概要										
小児期障害に対する理学療法により正常発達を引き出し、異常発達を可能な限り抑制する。そのための、知識・方法を学ぶ。										
講義目標										
【一般目標】	小児に対する理学療法と成人後の障害に対する理学療法との相違点を知る。									
	小児期障害の発生機序を知る。									
【行動目標】	小児の発達は運動だけでなく視覚、聴覚、社会性など全体的にみることが必要であることを理解する。									
	小児に対する理学療法の考え方を記述できる。									
	小児理学療法で対象となる疾患を列挙できる。									
小児期障害のそれぞれの定義や理学療法の方法を記述できる。										
回数	授業内容									
9	脳性麻痺総論①									
10	脳性麻痺総論②									
11	痙攣型脳性麻痺-両麻痺①									
12	痙攣型脳性麻痺-両麻痺②									
13	痙攣型脳性麻痺-四肢麻痺・片麻痺									
14	アテトーゼ型脳性麻痺									
15	講義内試験									
指定教科書	参考図書									
イラストでわかる小児理学療法	イラストでわかる小児理学療法演習									
評定方法	準備物・注意事項									
定期試験 100%	なし									

関西医科専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
整形外科学	専門基礎科目	I部2年(通年)	講義	60	2
担当教員		実務経験			
高橋 真太朗	回復期・生活期の運動器・中枢神経疾患の理学療法業務を中心に5年間従事				
講義概要					
運動器疾患の病理、病態を、正常な身体構造・心身機能と比較して学習する。					
各疾患の疫学、原因、病態、症状(合併症)、検査法、治療、予後について学習する。					
講義目標					
【一般目標】	運動器疾患の病態や症状を解剖学的(画像所見を含む)、生理学的、病理学的に理解できる。				
	運動器疾患の疫学、原因、病態、症状(合併症)、検査法、治療、予後が理解できる。				
	主要な運動器疾患をもつ患者へ理学療法をおこなう際のリスク管理が想起できる。				
【行動目標】	整形外科における診断・治療・疾患の概略や、運動器の画像読影に対して記述および選択できる。				
	運動器疾患の病態や症状を解剖学的、生理学的、病理学的に説明および記述できる。				
	身体症状や整形外科的所見等から運動器疾患を選択できる。				
授業内容					
16	関節リウマチ① <概要、病理・病態、症状>				
17	関節リウマチ② <検査、評価、治療>				
18	関節リウマチの類縁疾患 <強直性脊椎炎等>				
19	脊椎疾患各論① <椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症等>				
20	脊椎疾患各論② <靭帯骨化症、分離すべり症、骨折等>				
21	脊椎疾患各論③ <その他の脊椎疾患>				
22	末梢神経損傷① <総論、腕神経叢麻痺、胸郭出口症候群等>				
23	末梢神経損傷② <上下肢の末梢神経損傷等>				
24	運動器の感染症(筋・骨・関節等)、骨代謝 <壊死性筋膜炎・化膿性関節炎等>				
25	骨粗鬆症 <内科疾患含む>	石灰化障害 <骨軟化症・くる病>			
26	骨壊死、区画症候群、挫滅症候群 <骨端症等>				
27	小児期疾患、骨化障害・骨系統疾患 <先天性内反足、軟骨無形成症、骨形成不全症等>				
28	先天異常症候群 <Marfan症候群等>	骨軟部腫瘍① <分類、診断等>			
29	骨軟部腫瘍② <骨肉腫、転移性骨腫瘍、軟部腫瘍>				
30	熱傷 <評価、分類、重症度、合併症、治療>				
指定教科書			参考図書		
標準整形外科学			病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 運動療法に役立つ 単純エックス線像の読み方 OS NEXUSシリーズ No.1~15		
評定方法			準備物・注意事項		
定期試験 前期50%+後期50% = 100%			講義ノート(講義時に配布予定)、3色(赤・青・緑)ボールペン、 3色(赤・青・緑)蛍光ペン、指定教科書を持参すること。 授業中は必ずメモをとること。		

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
神経内科学	専門基礎科目	I部2年(通年)	講義	60	2					
担当教員	実務経験									
鍼田 幸輔	介護老人保健施設・回復期リハビリテーション病院において中枢神経系理学療法を中心に12年間従事。									
講義概要										
神経疾患の病理、病態を理解する。各疾患の原因、症状、治療、予後について学習する。										
講義目標										
【一般目標】	神経疾患の症状を生理学的・病理学的に理解する。									
	神経疾患の原因、病態、症状、治療、予後を学習する。									
	神経疾患に対する理学療法におけるリスクを理解する。									
【行動目標】	神経疾患の症状を生理学的・病理学的に説明できる。									
	神経疾患の原因、病態、症状、治療、予後を記述および選択できる。									
授業内容										
16	後期オリエンテーション、[復習] 大脳基底核 [病態] 錐体外路症状									
17	錐体外路疾患 : パーキンソン病ほか①									
18	錐体外路疾患 : パーキンソン病ほか②									
19	[復習] 小脳 [病態] 小脳症状									
20	脊髄小脳変性症 : 多系統萎縮症ほか									
21	脊髄疾患① [復習] 伝導路									
22	脊髄疾患②									
23	運動ニューロン疾患 : 筋萎縮性側索硬化症ほか									
24	脱髄疾患 : 多発性硬化症、ギラン・バレー症候群ほか									
25	末梢神経障害									
26	神経筋接合部疾患① : 重症筋無力症ほか									
27	神経筋接合部疾患② : Lambert-Eaton症候群ほか									
28	筋疾患 : 炎症性疾患ほか、筋電図									
29	中毒・代謝性疾患、感染症ほか									
30	後期まとめ									
指定教科書	参考図書									
病気がみえる⑦脳・神経	メディカルスタッフ専門基礎シリーズ 脳神経内科学 新 病態生理できった内科学7神経疾患									
評定方法	準備物・注意事項									
定期試験: 前期50% + 後期50%	指定教科書と配布資料を忘れずに持参すること。									

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
内科学	専門基礎科目	I部2年(通年)	講義	60	2					
担当教員	実務経験									
飯 春菜	回復期リハビリテーション病院において中枢疾患系・内部障害理学療法中心に5年間従事。									
講義概要										
内科疾患の病理、病態生理を理解した上で、それぞれの疾患の症状、診断、治療について学習する。										
講義目標										
【一般目標】	各臓器の生理学的役割を理解し、各疾患に対するイメージをもつ。									
	主要な検査データを理解する。									
	主要な内科疾患をもつ患者へ理学療法をおこなう際、リスク管理ができる。									
【行動目標】	生理学、病理学、内科学の知識を関係付けて各疾患の病態や治療法を選択できる。									
	主要な内科疾患の検査法・検査データを選択できる。									
授業内容										
16	代謝性疾患 1 : 糖尿病									
17	代謝性疾患 2 : 糖尿病・脂質異常症									
18	消化管疾患 1 : 食道・胃の疾患									
19	消化管疾患 2 : 小腸・大腸の疾患									
20	腎・泌尿器疾患 1 : 腎不全									
21	腎・泌尿器疾患 2 : 腎不全									
22	肝胆脾疾患 1 : ウィルス性肝炎、肝硬変									
23	肝胆脾疾患 2 : 膵臓・胆嚢・胆道の疾患									
24	内分泌疾患 1 : 甲状腺・副甲状腺の疾患									
25	内分泌疾患 2 : 副腎の疾患									
26	血液疾患 1 : 赤血球・白血球系疾患									
27	血液疾患 2 : 血液凝固系疾患									
28	免疫系疾患 1 : 免疫不全、アレルギー									
29	免疫系疾患 2 : 膠原病									
30	まとめ									
指定教科書		参考図書								
なるほどなっとく！内科学		新・病態生理できった内科学 1~9 病気がみえる 1~10								
評定方法		準備物・注意事項								
定期試験 前期50%+後期50%=100%		生理学 I の資料 A4サイズのノート+赤・青・緑のボールペン ※板書中心のため、ルーズリーフよりノートの方が良い								

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
機能障害学	専門基礎	I部2年	講義	30	1					
担当教員	実務経験									
木村 大	回復期病院にて1年、急性期病院で3年間従事。併行して訪問看護ステーションで5年間従事。									
講義概要										
リハビリテーション医療の目的はADL能力向上であるが、そのADL能力低下の原因である機能障害について理解する。										
講義目標										
【一般目標】	機能障害の病態・発生のメカニズムや廃用症候群を理解する。									
	機能障害の回復過程を理解する。									
【行動目標】	リハビリテーションの介入方法を理解する。									
	各項目の機能障害の定義や原因を説明・選択できる。									
	現在の機能障害における機序または治療トピックスを説明・選択できる。									
廃用症候群について説明・選択できる。										
回数	授業内容									
9	関節可動域①									
10	関節可動域②									
11	急性痛・慢性痛									
12	筋力低下①									
13	筋力低下②									
14	協調運動障害①									
15	協調運動障害②									
指定教科書		参考図書								
機能障害科学入門		標準理学療法学・作業療法学 解剖学 標準理学療法学・作業療法学 内科学 標準理学療法学・作業療法学 病理学								
評定方法		準備物・注意事項								
定期試験100%		なし								

関西医科大学 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
理学療法セミナーⅢ	専門科目	I部2年(通年)	演習	60	2					
担当教員	実務経験									
柳本 展孝	一般・療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従事									
講義概要										
臨床において理学療法士に必要な基本的検査技術と対象者への配慮について、演習を通じて習得する。										
講義目標										
【一般目標】	基本的検査測定項目の意義・目的を理解する。 基本的検査測定項目実施時の注意点やリスクを理解する。 基本的検査測定項目実施時の対象者への配慮や正確性に関わる点を理解する。									
【行動目標】	基本的検査測定項目の目的や方法、注意点が伝わるようオリエンテーションができる。 十分にリスク管理を行いつつ、基本的検査測定項目を正確に実施できる。 基本的検査測定項目実施時に、対象者への負担や検査の再現性を考慮できる。									
回数	授業内容									
16	標準予防策、バイタルチェック									
17	形態測定(肢長)									
18	形態測定(肢長)									
19	関節可動域測定①									
20	関節可動域測定②									
21	関節可動域測定③									
22	徒手筋力検査法①									
23	徒手筋力検査法②									
24	徒手筋力検査法③									
25	実技試験(形態測定、ROM-t、MMT)									
26	総合臨床実習にむけた「統合と解釈」の理解									
27	症例検討①(基礎Ⅱ症例まとめ)									
28	症例検討②(グループディスカッション)									
29	症例検討③(発表準備)									
30	症例検討④(発表会)									
指定教科書		参考図書								
PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学		病気がみえる vol.7 脳・神経								
評定方法		準備物・注意事項								
実技試験 100% 前期 50%+後期 50%＝通年 100%		実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 聴診器、メジャー、ゴニオメーター、打腱器などの検査器具 実技練習・試験時は、安全に行えるよう細心の注意を払うこと 補助教員: 小財、飯、田中、大野、宮原、木村、辻								

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
理学療法評価学IV	専門科目	I部2年	演習	30	1					
担当教員	実務経験									
宮崎 真男	回復期リハビリテーション病院、整形外科クリニックにおいて理学療法を7年間従事									
講義概要										
姿勢・基本動作・歩行の観察・記録・分析手法の基本を身につける。										
講義目標										
	姿勢・動作の全体像を正確に捉えることができる。									
	姿勢・動作を観察・分析し、模倣や書き取りができる。									
	姿勢・動作の全体像・異常パターンを正確に捉え、記述・説明できる。									
【行動目標】	姿勢・動作の異常パターンから、問題点を列挙・説明できる。									
	姿勢・動作の異常パターンから、原因を列挙・説明できる。									
回数	授業内容									
1	総論、姿勢観察・分析、立位									
2	歩行①歩行周期・正常歩行・異常歩行									
3	歩行②歩行周期・正常歩行・異常歩行									
4	歩行③症例提示									
5	歩行④症例提示									
6	歩行⑤症例提示									
7	歩行⑥症例提示									
8	講義内試験①（総論、姿勢観察・分析、立位、歩行）									
9	立ち上がり①									
10	立ち上がり②症例提示									
11	階段昇降①									
12	階段昇降②症例提示									
13	寝返り・起き上がり①									
14	寝返り・起き上がり②症例提示									
15	講義内試験②（立ち上がり、階段昇降、寝返り・起き上がり）									
指定教科書		参考図書								
臨床実践 動きのとらえかた		症例動作分析 観察による歩行分析 日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ 身体運動学 関節の制御機構と筋機能								
評定方法		準備物・注意事項								
成績：講義内試験60% + 講義内課題40% = 100% 講義内試験①30% + ②30% = 60%		なし								

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
物理療法学	専門科目	I部2年	演習	30	1					
担当教員	実務経験									
辻 宏文	急性期病棟・維持期病棟・整形外科クリニックにて8年間従事。									
講義概要										
温熱・寒冷・電気などによる刺激(物理的手段)が生体に及ぼす影響を学び、各物理療法の目的や適応、禁忌について学習する。										
講義目標										
【一般目標】	温熱や寒冷、電気などの刺激が生体にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 各物理療法の目的や適応、禁忌について理解する。 教員の指導のもと、物理療法機器を体験する。									
	物理的手段が生体に与える影響を列挙・説明できる。 各物理療法の目的や適応、禁忌について列挙・説明できる。 物理療法機器の使用方法について列挙・説明できる。									
回数	授業内容									
1	物理療法総論									
2	温熱療法に必要な物理学・生理学									
3	ホットパック・パラフィン浴の理論と実技									
4	前半復習									
5	極超短波療法の理論と実技									
6	超音波療法の理論と実技									
7	寒冷療法の理論と実技									
8	水治療法の理論と実技									
9	前半まとめ：理論・実技									
10	光線療法の理論と問題演習									
11	電気刺激療法・バイオフィードバック療法の理論と実技①									
12	電気刺激療法・バイオフィードバック療法の理論と実技②									
13	牽引療法の理論と実技									
14	まとめ									
15	講義内試験									
指定教科書		参考図書								
PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける 物理療法		EBM物理療法 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 標準理学療法学 物理療法学								
評定方法		準備物・注意事項								
講義内試験100%		実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる								

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
義肢装具学	専門科目	I部2年(通年)	講義	60	2					
担当教員	実務経験									
石川 佑之輔	回復期リハビリテーション病院と有料老人ホームで、中枢疾患系理学療法を中心に5年間従事									
講義概要										
切断や機能障害を呈した患者に対する義肢、装具の基礎的知識を学習する。 義肢、装具を使用した際の生体への影響を学習する。										
講義目標										
【一般目標】	義肢、装具の基本的構造と、生体に与える影響を知る。 疾患ごとに使用する装具の種類と役割を知る。 装具を使用した理学療法の目的を理解する。									
	義肢、装具の基本的構造と、生体に与える影響を説明できる。 疾患ごとに使用する装具の種類と役割を説明、および列挙できる。 装具を使用した理学療法の目的を説明できる。									
回数	授業内容									
16	上肢切断と義手									
17	装具総論									
18	下肢装具総論①（部品と機能）									
19	下肢装具総論②（部品と機能）									
20	短下肢装具（種類と適応）									
21	短下肢装具（部品の種類と調整）									
22	長下肢装具（種類と適応）									
23	長下肢装具（実際の使用方法）									
24	靴型装具（種類と適応）									
25	体幹装具、側弯症装具①									
26	体幹装具、側弯症装具②									
27	疾患別装具の処方（脳卒中片麻痺の装具）									
28	疾患別装具の処方 (整形外科疾患・小児疾患の装具、上肢装具)									
29	カックアップ・スプリントの作成									
30	後期のまとめ									
指定教科書		参考図書								
15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学		義肢装具のチェックポイント 義肢装具学(医学書院)								
評定方法		準備物・注意事項								
期末試験:前期50%+後期50%		後期は装具学の教科書のみ使用 授業では講義を聞いて、要点や解説を随時配布資料に書き込むこと								

関西医科大学 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
運動療法学	専門科目	I部2年(通年)	演習	60	2					
担当教員	実務経験									
木村 大	回復期病院にて1年、急性期病院で3年間従事。併行して訪問看護ステーションで5年間従事。									
講義概要										
理学療法の中核的な治療手段である運動療法について、その理論的背景を学び基本的な技術を習得する。										
講義目標										
【一般目標】	運動療法の方法と理論的背景を理解する。 運動療法の基本的知識と基本的技術を習得する。									
【行動目標】	運動療法の定義、基本事項を記述できる。 各運動療法の目的・種類・原則・方法を選択及び記述できる。 筋の起始・停止・運動方向を理解した上で目標としている筋のストレッチングを実施できる。 骨運動を理解した上で、他動的に関節可動域運動を実施できる。 対象者が筋力を発揮しやすい抵抗運動や自動介助運動を実施できる。									
回数	授業内容									
16	筋力の改善：①目的									
17	筋力の改善：②基本原則									
18	筋力の改善：③メカニズム									
19	筋力の改善：④方法									
20	前期の復習：関節包内運動、ストレッチング									
21	筋力増強運動の実際：①抵抗運動、自動介助運動 ・徒手抵抗運動方法（下肢） ・自動介助運動方法（下肢）									
22	筋力増強運動の実際：②抵抗運動、自動介助運動 ・徒手抵抗運動方法（下肢・上肢） ・自動介助運動方法（下肢・上肢）									
23	筋力増強運動の実際：③抵抗運動、自動介助運動 ・徒手抵抗運動方法（上肢） ・自動介助運動方法（上肢）									
24	筋力増強運動の実際：④抵抗運動、自動介助運動 ・上下肢まとめ									
25	実技試験③筋力増強運動									
26	関節可動域運動の実際：ストレッチング（上下肢関節包外） ・スタティック、ダイナミックストレッチング									
27	基本手技 ・関節モビライゼーション（すべり、傾斜、引き離し） ・横断マッサージ									
28	協調性、バランスの改善									
29	持久力の改善									
30	筆記試験									
指定教科書		参考図書								
シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト		理学療法学ゴールド・マスター・テキスト 運動療法学 理学療法学 障害別アプローチの理論と実際								
評定方法		準備物・注意事項								
【成績】前期50%+後期50% = 100% 前期:実技試験50% + 講義内試験50% = 100% 後期:実技試験50% + 講義内試験50% = 100%		実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 配布資料を忘れずに持参すること。 講義中は必ずメモを取ること。								

関西医科大学 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
運動器理学療法学	専門科目	I部2年(通年)	演習	120	4
担当教員	実務経験				
宮原 隆登 宮崎 真男	外来リハビリ・急性期病棟等で6年間従事。高校野球大会のメディカルサポート等も経験。 急性期・回復期リハビリテーション病院、スポーツ整形外科クリニックに7年間従事。				

講義概要

運動器疾患における病態や合併症、禁忌事項について学ぶ。運動器障害に対する理学療法評価・治療を学ぶ。

講義目標

【一般目標】	運動器疾患の概要について理解する。運動器障害を引き起こす疾患、術式、術後スケジュール、禁忌事項を理解する。
	運動器障害の患者に対する理学療法評価と治療の項目を理解する。スポーツ障害・外傷の特性を理解し予防法を検討できる。 各疾患の特性を理解した上で、整形外科的検査の方法を習得する。
【行動目標】	運動器障害を有する患者の理学療法評価を列挙できる。スポーツ障害・外傷の発生機序を説明できる。
	運動器障害を引き起こす疾患にあわせた運動療法や物理療法、装具療法を選択・列挙できる。 術後スケジュールにあわせた理学療法評価・治療とリスク管理について説明できる。 整形外科的検査を正確に実施し、意義を踏まえた結果の説明ができる。

回数	授業内容
31	変形性関節症1：総論・理学療法評価
32	変形性関節症2：理学療法と運動連鎖
33	変形性膝関節症1：理学療法評価
34	変形性膝関節症2：保存療法・TKA
35	変形性股関節症1：保存療法
36	変形性股関節症2：THA
37	下肢疾患（ノンコンタクトスポーツを例に）
38	下肢疾患（ノンコンタクトスポーツを例に）
39	下肢疾患（コンタクトスポーツを例に）
40	下肢疾患（コンタクトスポーツを例に）
41	下肢疾患に対する治療手技例（メディカルリハ）
42	下肢疾患に対する治療手技例（アスレチックリハ）
43	下肢疾患に対する治療手技例（その他応用編）
44	RA：概要・理学療法・ADL指導
45	末梢神経損傷の理学療法

指定教科書	参考図書
Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学	局所と全身からアプローチする 運動器の運動療法 ここがポイント！ 整形外科疾患の理学療法 運動療法のための機能解剖学的触診技術
評定方法	準備物・注意事項
定期試験：前期+後期=70% 実技試験：前期+後期=20% 症例検討：前期+後期=10%	実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 実技練習・試験時は、安全に行えるよう細心の注意を払うこと

関西医科大学 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
運動器理学療法学	専門科目	I部2年(通年)	演習	120	4
担当教員	実務経験				
宮原 隆登 宮崎 真男	外来リハビリ・急性期病棟等で6年間従事。高校野球大会のメディカルサポート等も経験。 急性期・回復期リハビリテーション病院、スポーツ整形外科クリニックに7年間従事。				

講義概要

運動器疾患における病態や合併症、禁忌事項について学ぶ。運動器障害に対する理学療法評価・治療を学ぶ。

講義目標

【一般目標】	運動器疾患の概要について理解する。運動器障害を引き起こす疾患、術式、術後スケジュール、禁忌事項を理解する。
	運動器障害の患者に対する理学療法評価と治療の項目を理解する。スポーツ障害・外傷の特性を理解し予防法を検討できる。 各疾患の特性を理解した上で、整形外科的検査の方法を習得する。
【行動目標】	運動器障害を有する患者の理学療法評価を列挙できる。スポーツ障害・外傷の発生機序を説明できる。
	運動器障害を引き起こす疾患にあわせた運動療法や物理療法、装具療法を選択・列挙できる。 術後スケジュールにあわせた理学療法評価・治療とリスク管理について説明できる。 整形外科的検査を正確に実施し、意義を踏まえた結果の説明ができる。

回数	授業内容
46	脊椎疾患1：総論
47	脊椎疾患2：理学療法評価
48	脊椎疾患3：理学療法（保存・術後）
49	熱傷・運動器の生活習慣病：肩こり・腰痛
50	整形外科的検査
51	整形外科的検査
52	整形外科的検査
53	整形外科的検査 実技試験
54	スポーツ現場でのトレーニング例
55	症例検討①
56	症例検討②
57	症例検討③
58	症例検討④
59	症例検討⑤
60	症例発表

指定教科書	参考図書
Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学	局所と全身からアプローチする 運動器の運動療法 ここがポイント！ 整形外科疾患の理学療法 運動療法のための機能解剖学的触診技術
評定方法	準備物・注意事項
定期試験：前期+後期=70% 実技試験：前期+後期=20% 症例検討：前期+後期=10%	実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 実技練習・試験時は、安全に行えるよう細心の注意を払うこと

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
神経理学療法学	専門科目	I 部2年(通年)	講義	120	4					
担当教員	実務経験									
石川 佑之輔 鍬田 幸輔	回復期リハビリテーション病院と有料老人ホームにて中枢神経系理学療法を中心に5年従事 介護老人保健施設・回復期リハビリテーション病院において中枢神経系理学療法を中心に12年従事									
講義概要										
神経疾患に対する評価方法と、治療アプローチを学習する。										
講義目標										
【一般目標】	神経疾患の代表的な評価と治療アプローチを理解できる。 神経疾患の病態、症状を踏まえて、適切な評価項目を知る。 神経疾患を持った患者の情報、評価結果から、必要な治療プログラムを知る。									
【行動目標】	神経疾患を提示された際に、行うべき代表的な評価項目と治療アプローチを選択、列挙できる。 神経疾患によって出現している症状に対し、適切な評価を正確に実施できる。 神経疾患を持った患者の情報、評価結果から、必要な治療プログラムを選択し、その根拠が説明できる。									
回数	授業内容									
31	Parkinson病の理学療法（総論1）									
32	Parkinson病の理学療法（総論2）									
33	運動失調に対する理学療法（総論）									
34	運動失調に対する理学療法（評価実践）									
35	失調評価演習									
36	脳卒中総合評価スケール（SIAS）									
37	脳卒中総合評価スケール（FMAなど）									
38	Parkinson病、脊髄小脳変性症の復習									
39	Parkinson病の症例検討①									
40	Parkinson病の症例検討②									
41	Parkinson病の症例検討③									
42	Parkinson病の症例検討④									
43	Parkinson病の症例検討⑤									
44	症例発表（Aパターン発表）									
45	症例発表（Bパターン発表）									
指定教科書		参考図書								
15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学 I 15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学 II	PT・OT入門 イラストで分かる評価学 標準理学療法学 神経理学療法学									
評定方法		準備物・注意事項								
定期試験：前期37.5%+後期45%＝82.5% 実技試験：前期7.5% 症例検討課題：前期+後期=10%	実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 指定教科書と配布資料を忘れずに持参すること									

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
神経理学療法学	専門科目	I部2年(通年)	講義	120	4					
担当教員	実務経験									
石川 佑之輔 鍬田 幸輔	回復期リハビリテーション病院と有料老人ホームにて中枢神経系理学療法を中心に5年従事 介護老人保健施設・回復期リハビリテーション病院において中枢神経系理学療法を中心に12年従事									
講義概要										
神経疾患に対する評価方法と、治療アプローチを学習する。										
講義目標										
【一般目標】	神経疾患の代表的な評価と治療アプローチを理解できる。 神経疾患の病態、症状を踏まえて、適切な評価項目を知る。 神経疾患を持った患者の情報、評価結果から、必要な治療プログラムを知る。									
【行動目標】	神経疾患を提示された際に、行うべき代表的な評価項目と治療アプローチを選択、列挙できる。 神経疾患によって出現している症状に対し、適切な評価を正確に実施できる。 神経疾患を持った患者の情報、評価結果から、必要な治療プログラムを選択し、その根拠が説明できる。									
回数	授業内容									
46	脊髄損傷の理学療法（概要、最終獲得ADL）									
47	脊髄損傷の理学療法（脊髄損傷の評価）									
48	脊髄損傷の理学療法 (ポジショニング、寝返り、起き上がり、座位)									
49	脊髄損傷の理学療法 (車椅子駆動、プッシュアップ、移乗)									
50	脊髄損傷の理学療法 (車椅子駆動、プッシュアップ、移乗)									
51	脊髄損傷の理学療法 (ADL動作、立位、歩行)									
52	脊髄損傷の理学療法のまとめ									
53	頭部外傷、筋萎縮性側索硬化症の理学療法									
54	多発性硬化症、ギラン-バレー症候群、重症筋無力症の理学療法									
55	脳梗塞の症例検討①									
56	脳梗塞の症例検討②									
57	脳梗塞の症例検討③									
58	脳梗塞の症例検討④									
59	脳梗塞の症例検討⑤									
60	症例発表									
指定教科書		参考図書								
15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学 I		PT・OT入門 イラストで分かる評価学								
15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学 II		標準理学療法学 神経理学療法学								
評定方法		準備物・注意事項								
定期試験：前期37.5%+後期45%＝82.5%		実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる								
実技試験：前期7.5%		指定教科書と配布資料を忘れずに持参すること								
症例検討課題：前期+後期=10%										

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
内部理学療法学	専門科目	I部2年(通年)	講義	120	4
担当教員	実務経験				
山根 好史	療養病床、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどで地域理学療法を中心に10年従事。併行して整形外科外来で定期的に25年従事。				
柳本 展孝	一般・療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従事				

講義概要

運動障害において重要な心肺機能の障害や種々の疾患の起因となる糖尿病を中心に内部障害の特徴を学習し、その理学療法についての理解を深める。

講義目標

【一般目標】	内部障害といわれる循環器機能障害、呼吸機能障害、代謝機能障害などの起因疾患について理解する。 疾患それぞれに起因する運動機能障害や回復過程、予後等に関する知識を整理する。 それぞれの疾患に対して、リスク管理や運動療法、日常生活指導などの理学療法における理論と技術を習得する。 障害の改善だけでなく予防の観点からも疾患の理解を深める。
	心肺機能の機能と構造を理解し、説明できる。 循環器機能障害の病態と障害構造、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。 基本的な心電図を判読し、症状と照らし合わせることができる。 代謝機能障害(糖尿病)の病態と障害構造、種々の合併症、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。 基本的ながんリハビリテーションについて理解し、説明できる。 運動負荷試験と身体の応答について理解し、説明できる。 症例検討を行い、内部障害患者へのかかわり方を説明できる。

回数	授業内容
31	前期試験振り返り 循環器リハビリテーション総論 ①循環器総論 ②血圧
32	バイタルサイン、フィジカルアセスメント
33	心肺運動負荷試験 基礎理論、数値の解釈
34	循環器の理解(解剖・生理) ①心大血管系の解剖 ②刺激伝導
35	心肺運動負荷試験 問題演習
36	循環器の理解(解剖・生理) ③循環器の調節
37	心肺運動負荷試験 RUMP負荷によるCPX実技演習
38	心肺運動負荷試験 運動負荷プログラム実技演習
39	循環器病理と理学療法 ①慢性心不全等
40	糖尿病の理学療法 ①糖尿病の病態 ②糖尿病の理学療法評価
41	循環器病理と理学療法 ②虚血性心疾患(病態)
42	糖尿病の理学療法 ③糖尿病の理学療法
43	循環器病理と理学療法 ③虚血性心疾患(理学療法)
44	腎機能障害と理学療法 ①慢性腎臓病
45	循環器病理と理学療法 ③虚血性心疾患(理学療法)

指定教科書	参考図書
内部障害理学療法学テキスト	15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト内部障害理学療法学 循環代謝 内部障害のリハビリテーション 理学療法ハンドブック 第3巻 など
評定方法	準備物・注意事項
定期試験 前期40%+後期40%＝80% 小テスト 前期5%+後期5%＝10% 提出物(症例検討)前期5%+後期5%＝10%	実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 症例検討以外の演習時は、指定ジャージ着用 症例検討時にはノートPC持参を求める場合がある

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数
内部理学療法学	専門科目	I部2年(通年)	講義	120	4
担当教員	実務経験				
山根 好史	療養病床、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどで地域理学療法を中心 に10年従事。併行して整形外科外来で定期的に25年従事。				
柳本 展孝	一般・療養病棟にて、大腿骨頸部骨折、脳卒中、透析患者などの治療に5年間従事				

講義概要

運動障害において重要な心肺機能の障害や種々の疾患の起因となる糖尿病を中心に内部障害の特徴を学習し、その理学療法についての理解を深める。

講義目標

【一般目標】	内部障害といわれる循環器機能障害、呼吸機能障害、代謝機能障害などの起因疾患について理解する。 疾患それぞれに起因する運動機能障害や回復過程、予後等に関する知識を整理する。 それぞれの疾患に対して、リスク管理や運動療法、日常生活指導などの理学療法における理論と技術を習得する。 障害の改善だけでなく予防の観点からも疾患の理解を深める。
	心肺機能の機能と構造を理解し、説明できる。 循環器機能障害の病態と障害構造、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。 基本的な心電図を判読し、症状と照らし合わせができる。
	代謝機能障害(糖尿病)の病態と障害構造、種々の合併症、理学療法アプローチについて理解し、説明できる。 基本的ながんリハビリテーションについて理解し、説明できる。 運動負荷試験と身体の応答について理解し、説明できる。 症例検討を行い、内部障害患者へのかかわり方を説明できる。
【行動目標】	腎機能障害と理学療法 ②人工透析
	心電図 ①心電図基礎
	末梢循環障害の病態と理学療法 ①慢性動脈疾患と理学療法
46	心電図 ②心電図の波形と見方の基本
47	末梢循環障害の病態と理学療法 ②深部静脈血栓症と理学療法 ③リンパ浮腫と理学療法
48	心電図 ③心房性の不整脈
49	心電図 ④心室性の不整脈、ブロックなど
50	がんのリハビリテーション ①がんの疫学・病態
51	がんのリハビリテーション ②がんのリハビリ
52	症例検討
53	症例検討
54	症例検討
55	症例検討
56	症例検討
57	症例検討
58	症例検討
59	症例検討
60	症例発表

回数	授業内容
46	腎機能障害と理学療法 ②人工透析
47	心電図 ①心電図基礎
48	末梢循環障害の病態と理学療法 ①慢性動脈疾患と理学療法
49	心電図 ②心電図の波形と見方の基本
50	末梢循環障害の病態と理学療法 ②深部静脈血栓症と理学療法 ③リンパ浮腫と理学療法
51	心電図 ③心房性の不整脈
52	心電図 ④心室性の不整脈、ブロックなど
53	がんのリハビリテーション ①がんの疫学・病態
54	がんのリハビリテーション ②がんのリハビリ
55	症例検討
56	症例検討
57	症例検討
58	症例検討
59	症例検討
60	症例発表

指定教科書	参考図書
内部障害理学療法学テキスト	15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト内部障害理学療法学 循環代謝 内部障害のリハビリテーション 理学療法ハンドブック 第3巻 など
評定方法	準備物・注意事項
定期試験 前期40%+後期40%＝80% 小テスト 前期5%+後期5%＝10% 提出物(症例検討)前期5%+後期5%＝10%	実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる 症例検討以外の演習時は、指定ジャージ着用 症例検討時にはノートPC持参を求める場合がある

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
理学療法治療学	専門科目	I部2年(通年)	講義	60	2					
担当教員	実務経験									
内原 由佳子	病院・通所リハ・老健に計3年、整形外科クリニックにおいて10年間従事									
講義概要										
日常生活活動(ADL)の概念を理解するとともに、ADL評価や移動補助具の基本的知識・技術を習得する										
講義目標										
【一般目標】	ADLの概念、ADL評価(FIM・BI)の目的と項目および方法を理解する 移動補助具(車椅子・歩行補助具)の種類と構造および使用方法を理解する 各動作における介助方法を知る									
	ADLの概念、ADL評価(FIM・BI)の目的と方法を選択および記述できる 移動補助具(車椅子・歩行補助具)の種類、構造、使用方法を選択および記述できる 各動作における介助方法を学生同士で実施できる									
回数	授業内容									
16	移動介助（松葉杖）									
17	THAのADL									
18	片麻痺のADL									
19	ウイメンズヘルス①									
20	ウイメンズヘルス②									
21	ウイメンズヘルス③									
22	ウイメンズヘルス④									
23	筆記試験①／前庭性めまいについて									
24	リスク管理／動作介助（寝返り）									
25	動作介助（起き上がり）									
26	動作介助（立ち上がり／立位）									
27	動作介助（移乗）									
28	動作介助（歩行）									
29	患者・対象者教育									
30	筆記試験②／まとめ									
指定教科書		参考図書								
なし		シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン ウイメンズヘルス リハビリテーション								
評定方法		準備物・注意事項								
成績: 前期50%+後期50% = 100% 後期: 筆記試験2回((①35% + ②15%)		実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる								

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
地域理学療法学演習	専門科目	I部2年(通年)	演習	60	2					
担当教員	実務経験									
大野 京介	急性期病院において整形・中枢神経系理学療法中心に6年間従事。									
講義概要										
在宅復帰に向けての患者との関わり方やチームアプローチの必要性を学習する。 理学療法士として、介護保険領域を中心とした居宅サービスや施設サービスの取り組みを学習する。										
講義目標										
【一般目標】	在宅復帰に向けておよび在宅での理学療法や関りを理解する。 基本的動作の介助方法および指導方法を理解する。 演習(グループワークや個人課題)を通して、地域における理学療法業務を理解する。									
	在宅復帰に向けておよび在宅での理学療法や関りを検討・提案し、発表ができる。 基本的動作の介助方法および指導方法の発表ができる。 グループワーク(症例への居宅サービスや施設サービスの検討)したことを発表できる。									
回数	授業内容									
16	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討① <病態考察、動作観察>									
17	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討② <評価項目列挙>									
18	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討③ <統合と解釈、動作分析>									
19	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討④ <治療プログラム立案>									
20	通所リハ・訪問リハ・老健の症例検討⑤ <評価サマリー作成>									
21	基本的動作の介助指導 <資料作成>									
22	基本的動作の介助指導 <発表>									
23	放課後等デイサービスについて 学校保健について<グループワーク>									
24	学校保健について <グループ発表>									
25	看護連携用資料作成									
26	看護連携用資料作成・発表									
27	看護連携前発表練習①									
28	看護連携前発表練習②									
29	看護連携①									
30	看護連携②									
指定教科書			参考図書							
なし			なし							
評定方法			準備物・注意事項							
提出物80%+発表20%			実技の服装は【講義に関する注意事項】に準じる							

関西医科大学専門学校 理学療法学科 2025年度 後期 講義要領

科目名	科目区分	対象学年	講義形式	授業時数	単位数					
基礎臨床実習Ⅱ	臨床実習	I部2年	実習	180	4					
講義概要										
臨床実習指導者の下で多くの臨床を体験する。特に理学療法評価(検査技術)を中心に経験を重ね、対象者と多くの関わりを持つ中で医療人としての社会的スキルも身につけていく。										
講義目標										
【一般目標】	医療機関における理学療法士の役割について理解する。									
	医療に従事するものとしてのソーシャルスキルを身につける。									
	理学療法の対象者に対して情報収集および検査測定と結果の解釈を行う。									
【行動目標】	カルテや問診から必要な情報を収集し整理する。									
	疾患・病態から必要な検査測定項目を列挙し計画できる。									
	基本的な検査測定を対象者に対して安全に実施できる。									
歩行を含めた基本動作の動作観察ができる。										
検査測定結果を項目ごとに解釈する。										
	時期	内容								
実習前ゼミ	8月25日 D:4講時 (702) E:3講時	実習前オリエンテーション 実習資料配布、実習配置発表、身だしなみチェックなど								
学内実習 実習前OSCE	9月29日～10月3日 全て9:00～16:00予定	実習前OSCE、身だしなみチェックほか 実習目標作成、実技練習、実習前学習含む								
臨床実習	10月6日～11月1日	臨床実習180時間								
実習後ゼミ	11月4日(火) 1-2講時 (701/702)	実習課題提出、実習後面談など								
補充実習期間	2026年3月2-7日	実習時間数不足または不合格の場合のみ対象となる								
指定教科書	参考図書									
2025年度臨床実習指導要項(学生用) ※別途配布										
評定方法	準備物・注意事項									
実習に関わるゼミの状況、関連書類の提出状況、実習先での臨床技能の経験値と指導者による評価などを、全て加味して総合的に評定する。 学生自身の責任で正規期間内に必要時間数を満たせない場合は、補充実習対象あるいは評定対象外となる可能性がある。	携行物:実習ファイル(基礎実習Ⅰで使用したもの) 筆記用具、印鑑(シャチハタで可) 実習前後のゼミ、臨床実習には必ず2025年度臨床実習指導要項と実習ファイルを携行すること。 身だしなみ不備、忘れ物、態度不良、遅刻・欠席等は全て当該科目からの減点対象事項となる。また身だしなみ不良に対する修正の意思がない場合、ゼミの参加態度不良などに対しては、実習ゼミ等の段階で実習を中断・中止する場合がある。 実習中止の場合は、修了時間数を問わず単位取得不可となる。									